

5月23日(日)に国際基督教大学にて開催される理論部会シンポジウム「医療と安全」について、開催責任者の村上陽一郎教授(東大工学部名誉教授)より、開催にあたり下記のご挨拶を頂きました。

なお、本シンポジウムの連絡先 FAX 番号に過ちがあります。電子メールで参加希望をすでに提出された会員以外の方で参加ご希望の方は、以下に連絡をお願いいたします。

村上研究室 FAX 0422 - 34 - 6984

## 医療とリスク

村上 陽一郎

リスクという言葉の語源となるギリシャ語は「断崖」という意味らしい。切り立った断崖が両側から迫る狭い水路を、何とか巧みな操船術を駆使して、抜ける、というのが原義だったそうである。つまりリスクは、単なる危険ではなく、人間が行なう行為に関するものであり、したがって、何らかの利得を目指すときに、見越さなければならぬ危険を指す。

そうであるとすれば、医療はまさしく常にリスクに晒されている。患者の健康の回復という利得と引き換えに、どのような危険を見越すか、見越した危険をどのように防止し、緩和するか。医療は、そのこと(つまりリスク管理)抜きには成立しないはずである。ところが、現実には、製造業や運輸業で極く自然に行なわれてきたリスク管理の手法が、これまで医療の世界では必ずしも十分に採用されてきていない。こうした事態を背景に、この部会では、理論と実際的な経験から、どのような普遍的な原則を引き出すことができるか、という点に焦点を絞って、色々な活動を広げていきたいと考えている。今回のワークショップは、その船出の第一歩である。